

2日 月曜

ピレモン

1:15 彼がしばらくの間あなたから離されたのは、たぶん、あなたが彼を永久に取り戻すためであったのでしょう。

1:16 もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、すなわち、愛する兄弟としてです。特に私にとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、肉においても主にあって、そうではありませんか。

1:17 ですから、もしあなたが私を親しい友と思うなら、私を迎えるように彼を迎えてやってください。

1:18 もし彼があなたに対して損害をかけたか、負債を負っているのであれば、その請求は私にしてください。

1:19 この手紙は私の自筆です。私がそれを支払います。・・あなたが今のようになれたのもまた、私によるのですが、そのことについては何も言いません。・・

1:20 そうです。兄弟よ。私は、主にあって、あなたから益を受けたいのです。私の心をキリストにあって、元気づけてください。

1:21 私はあなたの従順を確信して、あなたにこの手紙を書きました。私の言う以上のことをしてくださるあなたであると、知っているからです。

1:22 それにまた、私の宿の用意もしておいてください。あなたがたの祈りによって、私もあなたがたのところに行けることと思っています。

1:23 キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパfrasが、あなたによろしくと言っています。

1:24 私の同労者たちであるマルコ、アリスト



ルコ、デマス、ルカからもよろしくと言っています。

1:25 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

ピレモンが自分の被害を考えたら、それは怒りしかないのですが、ここでパウロは神様の視点で見るといって勧めています。「彼がしばらくの間あなたから離されたのは、たぶん、あなたが彼を永久に取り戻すためであったのでしょう。」と述べていますが、「ためであった」と表現されているその目的はまさに主の目的です。

また「請求は私にしてください」と、パウロは自分が責任を持つことを明言しています。もともとそれでピレモンが請求書を送るとは考えづらいたのですが、また「そのことについては何も言いません。」といいつつ、結局言っているのはパウロのユーモアと思われれます。相手の心もほぐれることでしょう。またピレモンに宿の手配を頼んでいます。親しさと信頼も表わしているようです。

このように主は新しい人生を始める人に、周囲が心一つにして援助することを喜んでくださいます。何ができるでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

